

発行所 東海地方会ニュース編集事務局 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 愛知医科大学医学部衛生学講座内 電話(0561)62-3580 FAX(0561)62-3580

> 発行責任者 柴田 英治 —————————— 題字 皿井 進筆

巻 頭 言

悩んで 25年



「筆者はその会場で入手した "労働の科学"が産業精神衛生 特集となっていて、学会から の帰りの車中で興味深く読ん だことを今も記憶している。」 (元東海銀行本店診療所長:飯 田英男の著作より)、伝統ある

東海銀行のメンタルヘルスケアが産声を上げた瞬間です。この話はなんと昭和35年のこと。その後、飯田先生は外部の高名な先生方と相談しながら、銀行のメンタルヘルスケア体制を作り上げられました。当時の文献を見ると、現在一般に行われている4つのケア、一次から三次予防をすべて含んだ対策が列挙されており、先生の先見の明に後から大いに感服しました。昭和42年には診療所とカウンセリングセンターからなる体制を確立され、その後現在まで、銀行の合併等を経てもほぼそのままの形で、脈々とメンタルヘルスケアの取り組みを続ける基礎を作られました。

私が飯田先生を引き継いで東海銀行に入った平成元

三菱東京 UFJ 銀行 産業医 寺 澤 哲 郎

年には、メンタルヘルスに関しては既にこのような確立した体制ができており、私はそれに乗っかってケースの対応のみに集中していればいい状況でした。それからさらに25年、ケースの経験はたくさん積み、メンタルヘルスを取り巻く環境の変化に応じて色々なことを行ってはきましたが、相変わらず個々のケースを前にして、その人にとって最善の選択は何か、全体との公平性との兼ね合いはどうかと、悩みながら日々の業務を行っている毎日です。25年の間に何が進歩したかと考えると、忸怩たる思いです。

ただ、亡くなられた島悟先生(京都文教大学)が以前あるシンポジウムで語られていた言葉「メンタルへルスケアについては我々担当者が日々悩むことに意義がある。メンタルへルスはもうわかったと思ってしまったらそれでおしまいだ。」にはずいぶん勇気付けられました。これをよりどころに、これからも悩み続けていきたいと思っています。

今年もいい年になりますように。



左より、飯田先生、笠原先生(名大精神科)、伊藤先生(いとうクリニック)、寺澤 笠原先生の銀行退職送別会にて

開催報告

平成26年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会を主催して

トヨタ自動車株式会社 産業医 渡 邊 美寿津



平成26年6月21日(土) 中部大学名古屋キャンパスに て地方会研修会を担当しまし たので、報告させていただきま す。当日は予定を上回る100 数名の方々にご参加いただき、 盛会裡に終了することができ

ました。全面的にご協力賜りました、地方会長の柴田 英治先生や事務局の愛知医大衛生学講座の皆様に感謝 申し上げます。

今回は長年、自身が携わってきた職場メンタルヘルスをテーマに、学究的活動と実践的活動の両面を取り入れた内容としました。

講演では、愛知医大の小林章雄先生に、「職場ストレス研究に関する国内外の話題」と題して、ストレス研究最近の知見、国際研究の動向についてお話しいただきました。特に「職場ストレスの健康リスクは有意でなく、ストレス対策の効果は喫煙対策ほど期待されないと結論づけられた最近の話題は、真か偽か?」については、事象のとらえ方や本質を見抜くための多面的な考え方の必要性を痛感させられました。現在では

ストレスが関連しない病気はないと言えるほど、ストレスの関与はかなり明確であるにも拘らず、ストレスあるいはストレス反応はあまりにも多くの要因と交絡し、さまざまな表現型をとるため、今後もストレスの問題を学術的に扱うことへの難しさが込められていたように思います。先生は、現在のように職場のメンタルヘルス領域に多くの熱い視線が注がれる以前から、この問題に取り組んでこられています。あっという間の短い時間でしたが、知識が多く溢れ出し研究意欲が活性化される時間でした。













シンポジウムでは、「職場メンタルヘルス支援における役割と活動の実際」をテーマに、愛知産業保健総合支援センター(旧:愛知産業保健推進センター)の吉田有里先生には、小規模事業場での復職支援の地道な活動を通じてみえてきた小規模事業場の課題について、大同特殊鋼・産業医の斉藤政彦先生には、事例対応の際の経験を活かした注意すべきポイントについて、東芝四日市・産業保健師の高崎正子先生には、職場と連携して行った職場ストレス活動について、仁大病院・院長の舟橋利彦先生には精神科医の立場から、職場で活用できる精神科医との連携についてご発表いただき

ました。シンポジストの先生方をはじめ、参加者の方々からも忌憚のないご意見をいただくことができ、職場で抱えている問題解決のための糸口になったのではないでしょうか?またトヨタ自動車統括精神科医の奥山真司先生にシンポジウムの座長を、講演座長は浜松医大の巽あさみ先生の労を賜りましたことを申し添えます。

平成 26 年度地方会研修会が参加された皆様方の明日への成果につながることを祈念しております。ご支援、ご協力ありがとうございました。

職場ストレス研究会[成人期の発達障害の理解を深めるために|を聴講して

三菱重工業㈱大江健康管理科 産業医 仁 瓶 宗 樹



発達障害の診療・就労支援の 現場でご活躍されている大嶋 先生ならではの、豊富な経験 に基づいたご講演でした。成 人期の発達障害をみる時のポ イントをお示しいただき、発 達障害のみならず、養育問題

や虐待、不適切な環境とがあいまって情緒発達の問題が生じ、様々な症状(いわゆる 2 次障害)が発生し、成人期の問題につながるとのことでした。

発達障害の心の成長の特徴を具体的にお示しくださり、「現実世界の中での立場の消失」などが、大人になったときの不適合の素地になるとのことでした。

就労支援場面で診る発達障害について、大嶋先生ご 自身のクリニック等でのご実績をもとにお話しいただ きました。就労自体が、発達障害に対して良い効果を 及ぼすそうです。就労をしやすくするための配慮につ いてお示しいただき、「農作業が適している」など具体的にお示しいただきました。企業で見られる就労の問題について、発達障害の方に『うつ』が生じる場面や、対応のコツ等についても具体的にご講演いただき、今後の課題についてもお示しいただきました。

1歳半健診で、発達障害(あるいはその疑い)としてピックアップされるのは、15年前は全体の5~7%だったのが、現在では30%にのぼるというお話が印象に残りました。いまの子どもたちが成長して就労するころには、3人に1人が発達障害を抱えている状況になります。これからは、発達障害を抱えている成人に、いかに働いていただくかが重要になってくるとのことでした。

将来的に、発達障害の方に対する就労支援がますます重要になるとともに、就労後に能力が発揮できるような業務内容や職場環境を整えていくことが重要になっていくと感じました。



会員の声

転任のご挨拶

パナソニックエコソリューションズ電路株式会社 保健師 中 島 紗 織



平成 26 年 4 月より、大阪から愛知へ転勤し、東海地方会に仲間入りをさせていただきました。弊社は、「電気と暮らしを結ぶ路づくり」として、電気の安全を守るブレーカや分電盤等の開発・製造を行っ

ております。

学生時代の実習では、担当した患者さんには生活習慣病が元で入退院を繰り返している方が多く、予防医学の分野に興味を持ちました。実際に内科病棟で働き始めてからも、上記のような方は多く、日常生活を送りながらの疾病コントロールや予防の段階で継続的に関わることができればと考え、産業保健師として働き始めました。

入社後、2014年3月までは、営業や開発等の間接職が中心のパナソニックグループの別事業所にて勤務しておりました。産業保健師として実際に働き始め

て、わからない事ばかりでしたが、健康づくり・健康 管理だけでなく、過重労働対策・メンタルヘルス対策 等、多岐にわたり、産業医や先輩保健師から教わりな がら、活動しておりました。

4月より現在の事業所にて勤務しておりますが、製造現場のある事業所、また、一人勤務となり、以前とは異なる環境となりました。異動当初は、一人での勤務に対しての不安もありましたが、現在、少しずつ慣れてきた所です。まだまだわからないことや戸惑うことも多い中ですが、グループ全体での健康への取り組みに加え、事業所の特徴に合わせた活動ができるよう、従業員とコミュニケーションを大切にし、安全衛生・人事担当者に協力を得ながら、取り組んでいきたいと考えています。東海地方会での研修会等を通して、皆様からヒントを頂きながら、産業保健について学び実践していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

転入のご挨拶



平成26年4月よりジヤトコ株式会社の産業医として勤務しております益田和幸です。本年度から富士市に移り住むようになりました。九州も暖かい気候ではありますが、静岡も晴天の日が多く、非常に

住み良いところと感じております。

ジヤトコは自動車の自動変速機(オートマチックトランスミッション)を製造しており、中でも CVT(無段変速機)が弊社の主力製品であり、世界トップシェアメーカーです。従業員数はジヤトコ単独で 5 千人、関連会社も含めると 1 万 2 千人と大きな規模です。

弊社のメンタルヘルス対策として、産業保健スタッフによるケア、カウンセラーからのカウンセリング、外部 EAP によるストレスチェックと職場環境改善、

ジヤトコ株式会社 産業医 益田 和幸

人事部からの労務管理がありますが、それぞれ個別で対応していくことが多く、困難事例への対応やメンタルヘルス対策における PDCA (Plan-Do-Check-Act)サイクルが回っていない状況でした。統括産業医である西先生が、昨年度より各々の強みを把握し連携できる体制を作り上げている今まさに過渡期であり、他職種の専門性を活かすにはどうすべきか、連携に必要なことは何かを探りながら、貴重な経験をさせていただいております。従業員の人数も多く、様々な事例に頭を抱えていることもありますが、日本産業衛生学会東海地方会の方々からのご指導とご助言はいつも励みになります。

これからも従業員が安全に健康に働き続けられるよう産業医としての責務を忘れず、精進してまいりたいと存じます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

転入のご挨拶



平成26年度より日本産業衛生学会東海地方会へ転入しました、近藤祥と申します。この場をお借りして転入のご挨拶をさせていただきます。産業医科大学を平成18年に卒業し、県西部浜松医療センター、

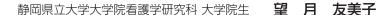
産業医科大学産業医実務研修センター、一般財団法人京都工場保健会を経て、産まれ育った地元浜松にある社会福祉法人聖隷健康診断センターにて嘱託産業医活動を中心に従事しています。前職も現職も同じ企業外労働衛生機関でありながら、地域性や企業外労働衛生機関医として求められる役割が異なるため、先輩医師の指導を受けながら試行錯誤の毎日です。現職と前職、理想と現実、新規事業場と既存事業場など、産業医として、労働衛生機関医として悩むことも多いですが、悩むこと自体を仕事の楽しみと感じ、充実した毎日を

聖隷健康診断センター 産業医 近藤 祥

送っています。

浜松は自動車やバイク、楽器などの製造業をはじめ、多くの企業がある全国的にも有数の工業都市であり、嘱託産業医のニーズも非常に多い地域です。学生時代に漠然と思い描いていた、「将来嘱託産業医として地域貢献したい」という将来像が現実になりつつあります。余談ですが、将来像をもう少し詳しく説明すると、「卒後は産業医のコースを選択し、京都工場保健会(前職)で修練を積み、地元浜松に戻って地域貢献がしたい。」でした。修練を積む期間が想定より少し短かった印象もありますが、ここまで現実となるとかえって怖い気もします・・・・ここまで来ることができたのは多くの先生方や関係者の支援のおかげです。本当に感謝しています。日々の職務を通して地域貢献などの恩返しが少しでもできればと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

入会のご挨拶





この度、日本産業衛生学会に学生会員として入会いたしました。私はこれまで静岡県立大学短期大学部で助手をしておりましたが、産業看護活動分野での専門性を高めたいと一念発起し、現在は大学院

生として産業看護職を対象とした調査研究を行っております。この調査を通して、研修会や勉強会でお会いした産業看護職の諸先輩方は、どなたも積極的に自己研鎖を積んでおられ、貴重なご助言や最近の産業看護活動の現状についても伺うことができ、大変感謝しております。

本学会に入会したきっかけは、平成 26 年 4 月に発足した「さんぽ会・名古屋」の研修会で愛知の産業看護職の方と知り合ったことでした。この研修会では、さまざまな職種の方が集まり毎回積極的なディスカッ

ションを行っており、私が刺激を受ける大切な場となっています。

同年に名古屋で開催された東海地方会では、興味深い内容の講演を拝聴できただけでなく、職場ストレスに関する最新の話題や研究に触れることができ、国内の動向に限らず、広い視野を持ち海外へも目を向けることの重要性を再認識いたしました。また、東海地方会ニュースでは、東海地区における産業医や産業看護職の先輩方の貴重なお話や近況を知ることができる機会となっており、いつも大変楽しみに拝読しております。

産業看護職は単独の職場であることが多いことから も、自ら研修などに参加することで日頃の活動に役立 つヒントが得られるのではないかと感じています。

今後は、学会等でみなさまのお世話になると思いますが、ご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

教室の紹介

四日市看護医療大学大学院 産業看護学分野(河野啓子研究室)のご紹介



四日市看護医療大学大学院修士課程は、看護学部第1期生の卒業と同時に、平成23年4月に設置され、今年で4年目を迎えております。本大学院の「教育目的と育成を目指す人材」に、「広い視野と柔軟な思考力・想像力を持ち、看護教育・研究能力を有する」といった大学院では当然求められる能力のある人材の他に、「社会的に必要性が高まっている産業看護の専門的知識を有する人材」が掲げられております。それを受けて、大学院教育において産業看護学が独立した分野として位置づけられております。これは全国の看護系大学院を俯瞰しても大きな特徴だと言えるでしょう。

さて、大学院開設当初より河野啓子研究室は、本学大学院においても非常に人気の高い研究室の一つです。それは、入学生が三重県のみならず、愛知県そして兵庫県からも学びに来ているということからもおわかり頂けるでしょう。研究室に在籍する学生は、現在修士課程9名(全員社会人学生)、修了生も既に1期生の2名を輩出しています。学生の大多数が産業保健の現場で幾年にもわたり豊富な経験を積んだ方々ですので、理論と実践の融合を常に頭に置きながら、活発な討議が

行われております。また学生の中には、病院の看護部門の要職を務めつつ、医療機関における産業保健の充実について考え、産業看護学を学んでいる方もいます。多様な背景を持つ学生が、産業看護学について熱く語り合う光景、想像してみてください。この世界にいて、良かったと思う瞬間です。

研究指導は、河野啓子先生が主宰で、その協力者として畑中純子准教授と私、後藤由紀が携わっています。産業看護について熱く語り合うというフレーズから、喧々諤々の場面を想像された読者もおられるかもしれません。しかし、河野啓子先生の学問の見識の深さは当然のこと、温かいお人柄と常に学生が何を迷い、考え、求めているかを心に置き、思慮深く接し指導される姿勢から、学生はもちろん私ども教員も専門的知識だけでなく、人としての真摯な姿勢も学んでいるといって間違いありません。

四日市看護医療大学大学院は、社会人でも学ぶ ことのできる体制を整えております。興味を持たれた方はどうぞ河野研究室のドアをノックしてください。

(文責:後藤由紀)

吉田 勉先生 追悼特集

吉田勉先生(名城大学薬学部臨床医学研究室)が平成26年10月29日に亡くなられました。 慎んで弔意を表し、寄せられた追悼文を掲載させていただきます。









吉田勉先生を偲んで

(一財) 岐阜県産業保健センター 加藤保夫



目を閉じると一昨年の忘年会でのいつもの元気な吉田先生の賑やかな笑顔と爽快な笑い声が思い出されます。昨年は私が体調不良で欠席し、今年は久しぶりに会えると楽しみにしていました。せめて"お見舞い"でも

一度お会いして、島正吾先生の事など気心の通じた話をしたかった気もします。吉田先生を語る時、臨床医学の師でもある立川壮一先生と私と3人で支えた島教室(公衆衛生)時代が懐かしく思い出されます。じん肺、石綿肺のフィールド研究、ベリリウム肺、白金喘息のア

レルギー関連の研究などに携われました。産業現場と 学問の両面に精通した数少ない研究者の御一人で、そ の持前の行動力から、後輩たちの面倒見もよく、その 指導のもと多くの学位取得者も輩出しました。また産 業衛生学会では地方会ニュースの責任者、本部理事も 歴任され、さらには全国のじん肺研究会の世話人とし て、肺がんの合併症、肺機能改訂、デジタル標準写真 の作成などにご尽力され、最近就任された中央じん肺 審査医として更なる活躍が期待されていた矢先のこと で、誠に残念でなりません。最後にいつもカラオケで、 吉田先生を中心に拡がる"赤いスイートピー"の皆の輪 を思い出しつつ、安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

吉田先生、早過ぎます



藤田保衛大の公衆衛生学教室には、島正吾先生のもとに立川壮一先生、加藤保夫先生、吉田勉先生らが並び立つ時代がありました。臨床にも、基礎にも強い社会医学教室として名が轟いていました。吉田

先生は、私が尊敬する同年代の研究仲間です。1985年頃、島先生からこんな話を聞きました。「吉田君は、

愛知学泉大 久永直見

突貫小僧だ。できそうもないことでもやれるよ。」私 の印象も、まさにその通りでした。

先生が、初めて産衛学会東海地方学会で発表したのは 1978 年で、TDI 曝露作業者 62 名中 57 名に肺紋理増強という注目すべき内容でした。以後、先生は、常に職場に立脚して、職業性肺疾患を軸に、幅広く重要な仕事をされました。私の関心に絞ると、例えば、現行の Be 管理濃度以下での感作の発生を示唆した論文(Ind Health, 1997)やトリエチルアミンによる

霧視の症例報告(溶剤中毒症例集第7集、2000)は、 先生の本領発揮というべき仕事だと思います。

20余年前、先生は、JICA・フィリピン労働安全衛生センタープロジェクトに長期派遣されました。先生作のじん肺胸部X線撮影要領は、一昨年、私が現地を訪れ

た際にも使われていました。Dr. Benと親しまれた先生のファン達も、訃報に深く哀悼の意を捧げています。

通夜の席で、先生の泰然とした遺影に接しましたが、 長逝には早すぎます。遺された友として、先生の笑顔 を思い出しつつ仕事をしていきたいと思います。

吉田勉先生との思い出



吉田勉先生との出会いは、 1983年5月からになります。 私の医師国家試験が終わって、公衆衛生学教室の大学院 生としてお世話になることが 決まってからです。教室に挨 拶に行き、その時初めてお顔

を拝見しました。立川壮一先生、吉田勉先生、そして 私という3人体制で入院患者を受け持つ臨床医として の仕事、及びじん肺や職業生アレルギー等の労働衛生 学を研究する医師として仕事を兼ねて行っていまし た。数年してからのある日、吉田先生に、「先生は将 来、臨床医になるのかそれとも労働衛生に進むのか」

藤田保健衛生大学医学部衛生学 谷脇 弘 茂

と質問したところ、「労働衛生の方が興味が持てるので、将来はそちらに梶を切ると思う」と答えられました。臨床医の仕事では、がん患者も受け持つこともあり、吉田先生に「もしがんに罹患したらどうしますか」と尋ねたことがありました。その回答は、「家にも近いし後輩もいるから、この病院で治療を受ける」とのことでした。それが現実になるとは筆舌に尽くしがたく、悲しみにたえません。今後、吉田先生の薫陶を受けることができないかと思うと、なお戸惑うばかりです。この悲しみ、思いから抜け出すには、多くの時間が必要になります。悲しみを胸に秘めながら、吉田先生の教えを守って努力していきます。どうぞ、安らかにお眠り下さい。

吉田勉先生への感謝の言葉



今回執筆の機会を与えて頂きましたので、吉田先生へ感謝の言葉を述べさせて頂きたいと思います。

吉田先生との出会いは 2007 年でした。産業医科大学を卒 業後、産業医養成コースを修

了となる同年、所属先研究室教授の東敏昭先生(現産業医科大学学長)に縁もゆかりもない東海地方の企業への産業医就職希望をお伝えしていた矢先、吉田先生から東先生に日本ガイシの産業医の後継者の話があり、白羽の矢が立ったのがきっかけでした。

2008年6月に日本ガイシに就職してからの産業医活動における吉田先生の教育方針は、『背中で教える』というものでした。長年約3,500名の製造業の産業医を週半日の訪問で対応していただけあり、産業保健のコア業務とは何か、産業『医』としての業務は何か

日本ガイシ株式会社 産業医 中元 健吾

を常に考えて活動することを教わりました。労働衛生 3管理・産業保健体制づくり・安全配慮義務の観点を 重視した活動の重要性を教えて下さったことは、私の 産業医人生において多大なる影響を及ぼしており、大 変感謝しております。

一方、日本ガイシの活動以外でも、吉田先生のおかけで、日本産業衛生学会東海地方会理事、愛知県医師会・産業保健総合支援センター研修会等の講師の席を2008年以降すぐに準備して下さり、現在まで非常に良い経験をさせて頂いております。

今後は、吉田先生が敷いて下さったレールを大事にしつつも、産業保健に関わる様々なネットワークを活かしレールを自らも敷いていき、産業保健の視野を広げて東海地方・日本の産業保健に貢献することが吉田先生への恩返しと思っております。これまで本当にありがとうございました。吉田先生、これからも精進してまいりますので、天国で見守っていてください。

事務局から

地方会理事会

平成26年度 第2回理事会

日 時: 平成26年9月13日 (土) 10:00 – 12:00 場 所: 中部大学名古屋キャンパス(5階・510講義室)

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- Ⅱ. 報告事項
 - 1) 本部理事会報告事項
 - 2) 地方会事務局報告事項(会員状況)
 - 3) 平成26年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会(開催報告)
 - 4) 平成26年度地方会学会準備状況
 - 5) 部会・研究会
 - 6) 愛知県医師会産業保健部会
 - 7) 地方会ニュース
 - 8) 平成27年度総会ならびに研修会準備状況
 - 9) 関連学会
 - 10) 選挙について
 - 11) その他
- Ⅲ. 協議事項
 - 1)活動改革委員会について
 - 2) 地方会ニュースについて
 - 3) その他

平成26年度第3回理事会

日 時: 平成26年12月6日 (土) 10:00-12:00 場 所: 中部大学名古屋キャンパス(6階·610講義室) 【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- Ⅱ. 報告事項
 - 1) 本部理事会
 - 2) 地方会事務局報告事項(会員状況)
 - 3) 選挙結果
 - 4) 平成27年度予算
 - 5) 平成26年度地方会学会開催報告
 - 6) 部会・研究会
 - 7) 愛知県医師会産業保健部会
 - 8) 地方会ニュース
 - 9) 第27回産業保健スタッフのための研修会準備状況
 - 10) 平成27年度総会ならびに研修会準備状況
 - 11) 地方会活動改革委員会
 - 12) 関連学会
- Ⅲ. 協議事項(その他)

会員の異動

【新入・再入会員】

愛知①植野千鶴子 (三菱重工大江西健康管理科)

- ②永島めぐみ (㈱ティラド)
- ③山崎 琴恵 (㈱名古屋銀行)
- ④嶋村 美喜 (アビームシステムズ(株))

- ⑤稲垣 則子(トヨタ自動車㈱)
- ⑥高須 絢香 (日本郵政㈱)
- ⑦馬場 恵実(名菱テクニカ(株))
- ⑧熊谷 法子(古澤歯科)
- ⑨日置 加奈 (ソニーEMCS(株))
- 三重①河田由紀子(㈱東芝セミコンダクターストレージ社)
- 岐阜①西田真由美(日本通運㈱岐阜支店)
 - ②小堀小恵子 (イビデン㈱)
- 静岡①佐藤はる美 (旭化成ファーマ(株))
 - ②山下 典子 (スズキ健康保険組合)
 - ③舟津 碧(国立大学法人静岡大学)
 - ④澤村かおる (静岡銀行)
 - ⑤高橋真寿美(静岡銀行健康保険組合)
 - ⑥曾我 恵里 (本田技研工業㈱)
 - ⑦大澤 和美 (本田技研工業株)

【転入会員】

愛知①奥村 哲朗(産業精神保健(IMH)研究所)

静岡①尾土井 悠 (旭化成㈱ 富士支社)

【退会会員】

愛知①清水 高子 (清水ヘルス・ケア)

- ②中屋敷敦子(住友ゴム工業㈱)
- ③岩越 孝恭 (小野クリニック)
- ④小野 要(小野クリニック)
- ⑤下町江梨子 (トヨタ車体㈱)
- ⑥大橋 幸徳 (大同特殊鋼健康保険組合)
- ⑦吉田 勉(名城大学薬学部臨床医学研究室)
- 岐阜①国枝早智子(日本通運㈱大垣支店)
- 三重①荻田 佳子
 - ②谷 美保 (KKC近畿健康管理センター)
 - ③水野ルイス里美 (四日市看護医療大学)
 - ④山岡 祐輝 (㈱ナベル)

【転出会員】

愛知①上原 理恵(九州へ)②瀬戸 加大(関東へ) 静岡①中本 真理(関東へ)②森田 純仁(関東へ) 【地方会内異動】

- ①田中 生雅 (愛知教育大学)
- ②井上 智博 (アイシン化工株)
- ③小川 克仁(社会福祉法人聖霊会 聖霊病院)
- ④小倉 広康(日下病院)

【物故会員】

愛知 吉田 勉(名城大学薬学部臨床医学研究室) 平成26年10月29日ご逝去

平成26年度日本産業衛生学会 東海地方会選挙結果

1. 会長選挙当選者

柴田 英治

2. 代議員選挙当選者(県別、50音順)

(愛知県:定数 34)

飯田 和子 石川 浩二 市丸麻衣子 伊藤 由起

岩田 全充 上原 正道 梅村 朋弘 浦上 年彦 榎原 毅 大久保浩司 小野雄一郎 加藤 降康 通浩 小林 章雄 斉藤 政彦 洒井 潔 上島 久孝 洋子 榊原 榊原 柴田 英治 白石 知子 杉本日出子 城 憲秀 寺澤 哲郎 中元 健吾 那須 民江 西谷 直子 久永 直見 水谷 聖子 宮尾 八谷 寬 山本 美幸 克 村崎 元五 渡井いずみ 渡邊美寿津

(静岡県:定数 17)

赤津 順一 足立留美子 上原 池田友紀子 明彦 内野 文吾 遠田 和彦 尾島 俊之 清水 正昭 健一 巽 あさみ 菅沼要一郎 土屋眞知子 住吉 新島 邦行 西 賢一郎 西島 千晴 武藤 繁貴 山本 誠

(三重県:定数8)

河南 文子 後藤 由紀 後藤 義明 酒井 秀精 **笽**島 茂 高崎 正子 松田 元 村田真理子 (岐阜県:定数 5)

井奈波良一 梅津 美香 片倉 和子 黒川 淳一 牧野 茂徳

3. 本部理事候補者選挙当選者 (3 名・50 音順) 斉藤 政彦 柴田 英治 **塩**島 茂

これからの行事予定

第25回日本疫学会学術総会

日 程: 平成27年1月21日(水)~23日(金)

場 所:ウインク愛知 一般演題申込み期間:

平成26年8月1日(金)~9月18日(木)正午

第27回産業保健スタッフのための研修会

日 程: 平成27年1月31日(土) 10:00~17:00

場所:名古屋市立大学

職場ストレス研究会

日 程:平成27年3月18日(水) 14:00~16:00

テーマ:ストレス研究における質的研究

第85回日本衛生学会学術総会

日 程:平成27年3月26日(木)~28日(土)

場 所:和歌山県民文化会館ホテル

アバローム紀の国

第88回日本産業衛生学会

日 程: 平成27年5月13日(水)~16日(土)

会 場:グランフロント大阪

The 31st International Congress on Occupational Health (ICOH)

日 程: 平成27年5月31日 (日) ~6月5日 (金) 場 所: COEX Convention Center, ソウル

平成27年度総会ならびに研修会

日 時:平成27年6月13日(土)13:00~17:00場 所:三重北勢地域地場産業振興センター

(じばさん三重) 6階大ホール 三重県四日市市安島1-3-18 近鉄四日市駅西口より徒歩5分

企画運営委員長:酒井秀精(シャープ三重事業所)

受賞のご報告

広島県立総合体育館で開催された第74回全国産業安全衛生大会において、竹内 康浩先生(名古屋大学名誉教授、医学博士)が顕功賞を受賞されました。長年にわたり産業衛生学、産業中毒学、特に有機溶剤中毒の研究教育活動に従事し、多くの業績を残されたこと、当該分野の人材育成にも多大な貢献をされたこと、海外での技術指導といった国際協力活動にも数多く携わり、世界における日本の当該分野の評価向上に寄与されたことなどが受賞理由です。おめでとうございます。

編集後記

地方会ニュース編集に携わるようになり1年が経ちました。今まで以上に、産業保健の分野で活躍されている東海地方の方々と接する機会が増え、刺激的な1年となりました。またこの間には、ストレスチェックや化学物質リスクアセスメントの義務化など労働安全衛生法が改定されることも決まりました。時の流れとともにさまざまな変化があるのは当然のことですが、変化に確実に対応していくために、研鑽に努めないといけないと思うこのごろです。

キヤノン 池田由紀子

東海地方会ニュース

編集委員長 : 石川 浩二 (三菱重工業) 副編集委員長: 西谷 直子 (椙山女学園大学) 編集委員 : 池田友紀子 (キヤノン)

榎原 毅(名古屋市立大学)

河南 文子 (富士電機) 後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

後藤 由紀(四日市看護医城 憲秀(中部大学) 守田 祐作(新日鐵住金)

山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒 480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 愛知医科大学医学部衛生学講座内

TEL: (0561)62-3580 FAX: (0561)62-3580

E-mail: aratokai@aichi-med-u.ac.jp

印刷・製本

富士ゼロックスサービスリンク株式会社 TEL: (052)412-5251 FAX: (052)412-1440